

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2394800045		
法人名	株式会社 祐理		
事業所名	グループホームびいす		
所在地	愛知県豊明市栄町大原31-1		
自己評価作成日	平成27年1月13日	評価結果市町村受理日	平成27年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
訪問調査日	平成27年3月5日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のできること・できないことを見極めて、できないことをあきらめるのではなくどのようにしたら出来るかを共に考え自立を支援します。</li> <li>・地域の行事に積極的に参加している。</li> <li>・朝ごはんの時間が個人に合わせている。</li> <li>・外出が多い。</li> <li>・看護師は常駐していないが医療機関とは常に連携している。</li> <li>・施設が明るく、広く開放的で施設することなくオープンな施設である。</li> <li>・清掃が行き届いている。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>「グループホームびいす」は、家庭菜園が楽しめる畑を敷地内に持つ、単独型1ユニットの事業所である。個別ケアの理念の下、個々人の保有能力の見極めと、関わり方への検討、支援方法の統一化を重視している。職員へセンター方式や記録方法を説明し実際に記入して、理解と、観察や気づきの習慣が得られるよう質の向上を図っている。今後、入居者の担当職員を二人に増やす検討がなされており、違う角度からの視点を持つことを大切にして、職員の育成と共に理念の具現化に努めている。そして職員提案を柔軟に採用しながら、入居者主体の暮らしの支援にホーム全体で取り組んでいる。今年は、2周年記念イベントを家族会にて行った。家族アンケート結果も、十分な回答が得られており、良好な関係が深められている。また、入居者と共に作詞し合唱している「びいすの歌」、重度化や終末期に関する意向調査、市との災害協定書の締結等新たな取り組みを始めている。地域と協力関係を築き、喫茶や障害児デイサービス等、法人の連携を活かしながら、今後も益々の活躍が期待される事業所である。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を理解し、それに基づいたケアができるように心がけている。また月ごとの方針をきめて職員トイレに目標を掲示している。	理念「個別ケア」の実践に、入居者本人主体の自立生活支援を目指し、丁寧な観察を重視して取り組んでいる。センター方式を採用し独自のシートを用いて、職員全体で共有し実践している。理念について職員へ、入職時と年度初めの会議時に説明している。パンフレットにも理念を掲載している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には近隣の学校の生徒から挨拶をされたり、地区の運動会や文化祭に参加し交流が図れている。	町内会情報は、回覧板で得ている。入居者の制作品を作品展へ出展したり、盆踊り等町内行事に参加している。中学校の運動会へも参加している。その際、席を用意してもらい見学している。隣接する幼稚園とも、収穫した芋をもらう等交流がある。ボランティアやホーム内行事等に地域住民の来訪があり、良好な関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で近隣の方を読んだり、玄関先にもポスターを張るなどしている。地域の方の相談も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回発表者を変えて行い、行政・家族等に報告し話し合いの場を設け次のステップにつなげている。職員が発表することによってスキルアップにも繋がる。	入居者、家族、近隣住民、市の担当課職員の参加により年に6回行っている。ヒヤリハット、外部評価結果、活動報告を行い、理念や介護計画の説明もしている。参加者に解りやすいよう、パワーポイントを用いている。資料作成や発表は持ち回りで職員が担当して行い、時には、ホーム独自に作詞した歌を合唱することもある。	地域の代表者等、多様な参加メンバーでの開催を期待する。地域におけるホームの役割や取り組みを周知し、参加者からも意見がされる会議となるよう、その方法や工夫等を、職員間で検討されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市役所開催のケアマネ講習会等の参加。 ・市役所に疑問点があれば定期的に相談しに行っている。事故があればすぐに報告を行なっている。	市役所へ、月に一度及び必要時に訪ねている。電話連絡もあるが、なるべく面談することを心掛けており、担当者とは顔馴染みである。市に登録しているボランティアを利用したり、市主催の研修に参加している。県の研修にも参加している。その他の研修も、職員が希望するものは、費用を一部補助する等支援し、スキルアップを図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議でも勉強の場を設け受けしないケアに取り組んでいる。 ・スピーチロック等の勉強会も行い、気づかずにやっている事もあるため注意するようにしている。 ・日中は玄関のカギはかけずに自由な暮らしをしている。	全体会議時に、スピーチロックも含め勉強会を行っている。年間研修計画に組み込み、年に一度は振り返りの機会を持っている。外出願望のある入居者がいる際には、共に外へ出たり気分転換を図り、制止しないケアを行っている。その入居者の内面を推し量り、その人に適した支援の方法を探りながら、理念に沿い柔軟な対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・勉強会を行なっている。利用者の身体に変化がないか常に気を配っている。 ・入浴時に皮膚観察を行なっている。 ・少しの傷や打ち身等、記録やヒヤリハットで確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象となる利用者がいないため学び機会が少ない。</li> <li>自主的に研修会等参加したい。</li> <li>研修にいった学んだ。</li> </ul>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>契約時に内容を説明し納得している。</li> <li>疑問等は丁寧に答えている。</li> <li>時間を作って家族と面談している。</li> <li>今後はその職員でも対応できるようにしたい。</li> </ul>		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議等で行っている。</li> <li>全体会議でも共有が行われている。</li> <li>ご家族に面会に来た時に聞くように努めている。</li> <li>意見に対してはすぐに運営に反映できている。</li> </ul>	毎月、各世帯へおたよりを2通発送している。1通は、写真掲載の視覚に訴えた活動報告「今月のベストショット」。もう1通は、入居者個々の様子を記載した「家族連絡票」であり、担当職員が、一行日記で毎日を綴り報告している。年2回家族会があり、意見や要望の聴取と、発言しやすい関係構築を図っている。受けた意見は迅速に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>月2回の会議で意見・提案を吸い上げている。</li> <li>提案ノートを活用している。</li> <li>その都度意見を聞いてもらっている。</li> <li>意見・提案が反映されている。</li> </ul>	全体会議の中で意見提案する場がある。提案ノートを用いたり直接聴いてもおり、提案は反映している。また、休憩時間を利用し個人的に話せる機会を持つようになっている。忘年会で職員全体の親睦を深め、シフトの希望に応え、働きやすい職場環境整備に努めている。月間目標を皆で決め、共通認識を持って取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>この意見に耳を傾け職場の環境を良くしようとしている。</li> <li>融通がきき、子供がいても働きやすい環境。</li> <li>代表・管理者とは信頼関係が築けている。</li> <li>不満もある。</li> </ul>		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示板に外部研修や情報が掲示されている。</li> <li>各職員に担当をもたせ伸ばせる環境づくりになっている。</li> <li>常勤は目標管理シートを定めている。</li> <li>研修計画がある。また伝達研修も行われている。</li> </ul>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページを作成し公開している。</li> <li>他のGHIに訪問をした。また他の施設の方の訪問もあったりする。</li> <li>管理者が主に他の施設の方と交流をしている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本情報、入居者の面談も実施されスタッフ間でも共有している。</li> <li>・毎月のカンファレンス前にもモニタリングがされて本人の安心に努めている。</li> <li>・センター方式を導入して更新もしている。</li> <li>・本人の住んでいた生活や環境等にも配慮している。</li> <li>・利用者の目線に立って傾聴している。</li> <li>・個々にじっくり話す時間はつれていない。</li> </ul>		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の要望・関係づくりには努めている。</li> <li>・家族通信等を発行している。</li> <li>・施設に家族がよく訪問したり、電話での相談もしている。</li> <li>・家族の訪問には必ず会話をして近況報告をしている。</li> </ul>		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントを実施してその都度対応している。</li> <li>・家族に情報をもらいその方にあったサービスを提供に努めている。(宗教等)</li> </ul>		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人のできることはして頂き、困ったときは職員が介助をして関係を築けている。</li> <li>・介護するばかりではなく利用者からも教えてもらい良い関係づくりができています。</li> <li>・できること・できないことを見極めて自立支援している。</li> <li>・人生の師として経験豊富な面では教えてもらっている。</li> <li>・言葉使いには注意している。</li> <li>・和やかな生活が送れる場面づくりをしている。</li> </ul>		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<p>入居者・ご家族交え話ができています。ご家族の要望や小さな変化やこちらの考えも提案し本人を支える関係を築いている。</p>		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なじみの方も良く来たり、なじみの場所によくいっている。</li> <li>・お寺の朝市やお参りによくいっている。</li> <li>・誕生日会は本人の要望に応じて昔行っていたお店等に出向いている。</li> </ul>	<p>家族からの情報や日ごろの会話から拾い、把握している。誕生日には、馴染みを重視した希望の過ごし方を叶えている。また、買い物、お寺、選挙、朝市等その人の生活習慣を、家族に協力を得ながら支援している。入居者が以前利用していた他事業所の行事へ出かけ、馴染みの関係継続支援と、ホーム間の新しい関係構築を図っている。</p>	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<p>協同で作業してもらえるように努めている。相性の良さを把握してグループを作っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去2名退所されています。1名は過去に家族に情報を聞いた依頼は連絡をとっていません。相談等があれば支援を行う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用して把握に努めている。ご家族の要望も聞き、計画を立てている。日々のサービスの中でも把握している。	センター方式を用いた入居時の聴き取りを基にし、細やかに観察を重ね、「今」のその人の状態把握や思い、意向を汲み取っている。記録方法を工夫して、ケアが本人本位のものとなっているか職員間で検討している。一年毎の担当職員の交代は、職員の意識付けと、別の視点を持ち、新たな気づきを得る目的で行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式生活史を使用して把握に努めている。ご家族の要望も聞き、計画を立てている。介護記録から把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・出勤したときに情報交換してその日の体調にあわせたサービス提供をしている。 ・自己主張できる方との差を感じている。 ・できることやしたいことには表にしている。 ・定期的なカンファレンスがある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護計画・モニタリングは着実に行っている。 ・ケアマネが介護職員と共有して作成している。 ・皆から情報収集して作成している。 ・ご家族の意見も反省されている。	担当職員がモニタリングを毎日行い、一行日記も記録している。また、職員はセンター方式を発展させた独自のシート記入に携わり、日常での着目点や、気づきの習慣付けが図られている。3カ月に一度、計画の見直しをしている。面会時に聴き取った家族意見を取り入れながら、入居者の思いが反映された計画作成がされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・食事・水分量・排泄・バイタル日々の言葉等記録している。 ・時系列でセンター方式24時間シートを応用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その方の生活史に合わせ喫茶店、その他マンネリ化しないように新しい外出先にも出掛けている。 ・イベントにも職員会議で時間をかけて行う。 ・通院等必要な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園・地域の行事には参加している。</li> <li>・散歩を行なって季節感を感じてもらっている。</li> <li>・地域のお店に行くようにしている。</li> <li>・社協より毎年タオルの配布があり、それを使用し雑巾などを作成している。</li> </ul>		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かかりつけ医等の受診支援は的確にできている。職員の質問にも的確に答えてもらっている。</li> <li>・往診で対応をしている。</li> <li>・病院希望にも個別に対応ができている。</li> </ul>	協力医による内科往診は、基本月二回ある。緊急時には、24時間対応可能な体制がある。週一回、訪問看護師による健康管理を行っている。他科等への受診は、家族が行っているが、困難な場合には職員が支援している。希望者には、訪問歯科が受診可能で、口腔ケアも月二回行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護が入っているので看護師に聞きやすい環境になっている。</li> <li>・電話連絡も密にとれるようになっている。</li> <li>・週1回の訪問や電話連絡がとれるので疑問点は解決できている。</li> </ul>		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・往診から入院になったケースもあり比較的スムーズに入退院でき、病院のケースワーカーとも密に連絡がとれた。</li> <li>・退院の把握や食事の方法等を主にきくことができた。</li> <li>・病院関係者との事前の関係づくりはしていない。</li> </ul>		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状態を見ながら家族と相談してケアプランに盛り込む。</li> <li>・重度化した場合はできる限り施設でみれるようにしたい。</li> <li>・重度化した場合の方針は明確にしている。</li> <li>・管理者がセミナーの参加をした。</li> </ul>	入居時にホームの方針を説明し同意を得ている。その後、状態の変化に伴い意向の確認を行っている。今後も同様ではあるが、現在「意見確認書」にて、本人、家族へ意向調査の準備を進めている。これは、平時からの意向把握の必要性を感じた体験からのものであり、より良い運営に向けて取り組んでいるホームの姿勢が伺える。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部救急救命講習受講</li> <li>・事務所に手順書がある。</li> <li>・管理者・計画作成担当者が消防署の研修に参加し伝達研修を行なった。</li> </ul>		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練を定期的を実施している。</li> <li>・近隣のかたを呼んで訓練内容を見てもらった。</li> <li>・夜間設定での訓練も年1回は行っている。</li> <li>・水・食料の備蓄有。</li> </ul>	年二回消防署立ち会いの下、防災訓練を行っている。近隣住民の見学の中、避難時間の計測をする等、課題発見しながら行っている。夜間時の一人模擬訓練も行っている。市と協定書を交わし、地域の避難所として指定を受けている。市から備蓄品等が配給され、物資の供給も優先的にされる。ホーム独自の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・常に年長者としての敬意を忘れずにしかし、アットホームな雰囲気を作り、尊厳やプライバシーを守る生活が送れるようにしています。	毎年行う倫理研修は、接遇面にも触れている。セルフチェックの形で、各自に振り返りの機会がある。その他、全体会議時に話題にしたり、入職時の新人研修の中で行っている。入居者の名前の下に「さん」を付けて呼び、日常で言葉遣いの乱れがあれば、その場で注意している。全体会議開催は、イニシャルを使用したり声量に注意して進めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人が選択できるような言葉かけをしている。 ・決めることが難しい時はクローズな質問をしている。 ・時間の融通も聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・個々のペースに合わせている。 ・日課は決まっているがなるべく本人のペースに合わせる。 ・日常の中で自己決定ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・通販の本をみてもらって選んでもわうこともある。 ・洋服を買いに一緒にいき、服を選んでもらっている。 ・2か月に一度理美容の訪問がある。 ・出掛ける時にも一緒に服を選んでる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・日々の会話から好みを聞いたり。家事もほとんど一緒に行っている。苦手なものは品を変えたりしている。 ・食材も豊富にそろえ喜んでもらえるようにしている。 ・外食も多く楽しみになっていると思う。	入居者と相談しながらその日の献立を決め、調理を共に行っている。希望の食事を外食したり、バーベキューやおにぎり持参のピクニック等普段と違う食の楽しみを提供している。その計画作成は職員が担当して行い、準備には入居者も関わって行っている。おやつはさくら餅やひなあられを入居者が中心になって作ることもある。通信販売から食材を調達して本格的なおやつ作りもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量・水分量・尿量を個人記録に記載している。それを基に共有している。 ・スタッフが食べる量を理解して食事には時間をかけて作っている。 ・おやつの時間を多くして水分を多く取ってもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・訪問歯科の定期的な訪問をしている。 ・日々の毎食後の口腔ケアができてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄表を記載して行動パターンを把握している。</li> <li>・自尊心を傷つけないように、時間・場所を考え誘導している。</li> <li>・朝・夕の申し送りができている。</li> </ul>	個別ケア「できることとできないことを見極めて、できないことをどのようにしたら出来るかを共に考え自立を支援します」の理念に則り、個別の状態観察を入念に行いケアに反映している。介護度の高い入居者の支援の方法を検討し、トイレでの排泄が成功している事例がある。日中のみならず夜間時の対応も、ケース会議等で職員全員で共有し統一されたケアを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩・体操など毎日体を動かしている。</li> <li>・水分も多く取り入れるようにしている。</li> <li>・医師の指示の下、服用の指示をもらっている。</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日おきに入浴されている。</li> <li>・時間等は本人の希望を比較的合わせている。</li> <li>・順番は入居者の希望になっている。</li> <li>・ADLが低い方も湯船に二人で介助する等に対応している。</li> </ul>	一日おきに入浴サービスを提供しており、希望に添って、毎日の入浴や一番風呂等に応えている。場合によっては二人職員で対応し、入居者全員が、安全に安心して入浴できるよう努めている。また、グリーンの壁と窓カーテンがリラクセス効果のある入浴環境を実現している。入浴機器の導入を行っていくことを現在検討、準備中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・布団を定期的に干している。</li> <li>・眠ったまま・起きたままにならないように生活リズムに気を配っている。</li> <li>・声掛けを多くして気を配っている。</li> <li>・日中でも疲れている方は休んでもらっている。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強会を行なうなどして、薬の理解を深めている。</li> <li>・朝・昼・夕と薬の箱を分けて誤薬がないようにしている。</li> <li>・服薬すればそばについてみる。</li> <li>・複数の職員で薬のセット状況を確認している。</li> <li>・ファイル一覧表で把握をしている。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の会議での見直し、日々職員同士がこうしたいと話している環境にある。</li> <li>・外出・外食を積極的に行っている。</li> <li>・月のスケジュールを組んでいる。</li> <li>・趣味や昔したことを参考にできることの可能性をひろげていくようにしている。</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者の要望を聞き、遠方の外出も行っている。</li> <li>・散歩・買い物は日課となっている。</li> <li>・車ででの外出も入居者には好評。</li> </ul>	陽気の良い日には、毎日のように散歩へ出ている。ホーム横の自家栽培用の畑で、入居者が水やりや収穫等が行えるよう、屋外での活動を支援している。外出行事は月に一回は企画され、蓮や桜、梅、花菖蒲等の花見へ行ったり、買い物ツアーや地元の祭りへ出かけている。日常的な買い物等、個々の希望する外出に応えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少額をご本人管理その他はホームで預かり必要な時にお渡しする。</li> <li>・買い物に出掛ける際は自分で支払いができるようにしている。</li> <li>・ご自身で支払いをしてもらう時もある。</li> </ul>		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者の希望に応じ電話できるようになっている。</li> <li>・年賀状の支援もしている。</li> <li>・電話番号が分からない場合は調べてあげる。</li> </ul>		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものがあまりなく清潔感はある。・空間が広々しており使いやすい。</li> <li>・整理整頓されており清潔感がある。</li> <li>・クリスマス・お正月の飾り等季節によって変えている。</li> <li>・聞きなれた音楽がかかっており良い。</li> <li>・居室にネームが飾られておりわかりやすい。</li> </ul>	共用部は、吹き抜け構造で通風と採光がされ、グリーンソファセットが癒しの空間となっている。雑誌や新聞がさりげなく置かれ生活感がある。BGMに昭和の歌謡曲が流れていた。入居者が自発的に活動できる工夫の一つとして、掃除道具が目につく位置所々に配されている。視力低下の入居者への配慮に、手すり等が蛍光色に彩色されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソファ席・テーブル席等状況に応じ座る席を移動ができ工夫されている。</li> <li>・新聞・雑誌もとりにやすいように配置されている。</li> <li>・外出の写真が掲示されている。</li> </ul>		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅で使用されていたものを持ってきている方もいる。</li> <li>・居室にといれもありご家族の面会時をゆったり過ごされている。</li> </ul>	居室は、入口から室内が直に見えないプライバシーに配慮された構造となっており、希望により鏡の取り付けが出来る。エアコンの送風が直接当たらない工夫がされている。仏壇を持ち込んでいる人やカーペットを敷いている人等、その人の生活スタイルが尊重された居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できることリストを作成して支援している。</li> <li>・なるべく歩行状況をつくるようにしている。</li> <li>・手すりが多いため歩けるように工夫されている。</li> <li>・一人でトイレいけるように個室に設置している。</li> <li>・スペースが広いので歩きやすい。</li> </ul>		

## 目標達成計画

作成日: 平成 27年 5月 19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4(3)	地域の代表者等、多様な参加メンバーでの開催を期待する。地域におけるホームの役割や取り組みを周知し、参加者からも意見がされる会議となるよう、その方法や工夫等を、職員間で検討されることを期待したい。	民生委員、町内会の役員に参加してもらう。事例検討会や介護についての勉強会を行なう。	民生委員、町内会役員への案内の配布。町内行事に積極的に出て顔なじみになる。介護計画に基づき評価、モニタリングを行ないそれを事例にできないか検討を行なう。	6ヶ月
2	1(1)	理念「個別ケア」の実践に、入居者本人主体の自立生活支援を目指し、丁寧な観察を重視して取り組んでいる。センター方式を採用し独自のシートを用いて、職員全体で共有し実践している。理念について職員へ、入職時と年度初めの会議時に説明しているが忘れてしまっている職員もいる。	全員が理念を理解し、実践できる。	定期的な理念についての研修。全体会議で必ず理念に沿って介護ができていくか確認を行なう。理念に基づき介護計画を立てる。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。